

(案)

都市づくりのグランドデザイン

-The Grand Design for Urban Development-

平成 29 (2017) 年 7 月
東京都

目次

都市づくりのランドデザインの策定にあたって

第1章 都市づくりのランドデザインの役割	1
1 位置付け	1
2 目標時期	1
第2章 2040年代の社会状況や都民の活動イメージ	2
1 東京の人口予測.....	3
2 社会状況や技術革新の見込み.....	5
3 2040年代における都民の活動イメージ	9
第3章 東京が果たすべき役割	16
1 世界における役割.....	16
2 日本における役割.....	18
第4章 目指すべき新しい都市像	19
1 都市づくりの目標.....	19
2 目指すべき都市構造.....	21
3 新たな地域区分	30
第5章 都市づくりの戦略と具体的な取組	36
1 都市づくりの7つの戦略	36
2 7つの戦略に沿った具体的な取組.....	68
第6章 個別の拠点や地域の将来像	145
1 中枢広域拠点域	145
2 新都市生活創造域	157
3 多摩広域拠点域	163
4 自然環境共生域	168
第7章 2040年代の将来像の実現に向けて	171
1 様々な主体の参画・連携による都市づくり.....	171
2 計画や方針の策定等による政策誘導型の都市づくり	172
3 分野横断の考えに基づくプロジェクト型の都市づくり	174
4 未来を担う次世代に引き継ぐ	175

都市づくりのランドデザインの策定にあたって

知事巻頭言を作成中

第1章 都市づくりのグランドデザインの役割

1 位置付け

「都市づくりのグランドデザイン」は、平成 28（2016）年 9 月に東京都都市計画審議会から示された答申「2040 年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について」を踏まえ、目指すべき東京の都市の姿と、その実現に向けた都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を示す行政計画（以下「本計画」という。）です。

本計画は、「新しい東京」への 3 つのシティ、すなわち「セーフ シティ」「ダイバーシティ」「スマート シティ」の実現に向けた「都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020 年に向けた実行プラン～（平成 28（2016）年 12 月）」（以下「実行プラン」という。）の下、検討を進め、他の政策や計画との整合を図りつつ策定したものです。

なお、本計画は目指すべき都市の姿や戦略を明らかにすることに主眼を置いています。このため、必要な財源やスケジュールは、今後、都市計画区域マスタープラン[※]や個別の都市計画、また、分野横断的な様々なプロジェクトなどにより、それぞれの事業を進めていく際に明らかにしていきます。

2 目標時期

将来の社会経済情勢の大きな変化に適応でき、持続可能な成長を促すため、おおむね四半世紀先の未来である 2040 年代を目標時期として設定します。将来の社会経済情勢の大きな変化に適応でき、持続可能な成長を促すため、おおむね四半世紀先の未来である 2040 年代を目標時期として設定します。

第2章 2040年代の社会状況や都民の活動イメージ

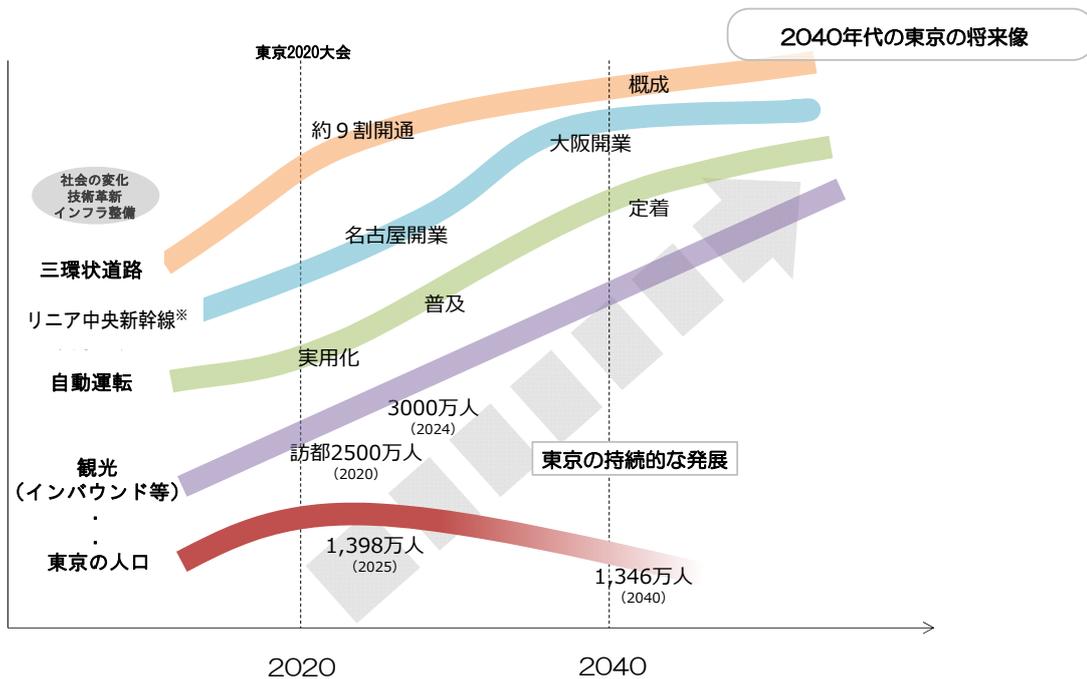
今後、2025年には人口が減少し始め、2040年代には高齢化率が3割を超えるなど、東京はこれまでどの都市も経験したことのない少子高齢・人口減少社会を迎えるものと予測されています。

また、グローバル化の進展、巨大地震の脅威や深刻化するエネルギー問題など、国内外の社会情勢の大きな変化や様々な困難に直面することも想定されています。

そのような中においても東京が持続的に発展していくためには、日本はもとより世界をリードする都市として更なる成長を遂げ、世界中の誰もが憧れ、希望と活力があふれる成熟した都市としていくことが必要です。

ここでは、社会情勢の変化や技術革新、インフラ整備の進展などを踏まえた明るい未来への展望として、2040年代の社会状況や都民の活動イメージを将来像の一端として描き、今後のより良い都市づくりの実現につなげていきます。

<想定される社会の変化やインフラ整備のイメージ>



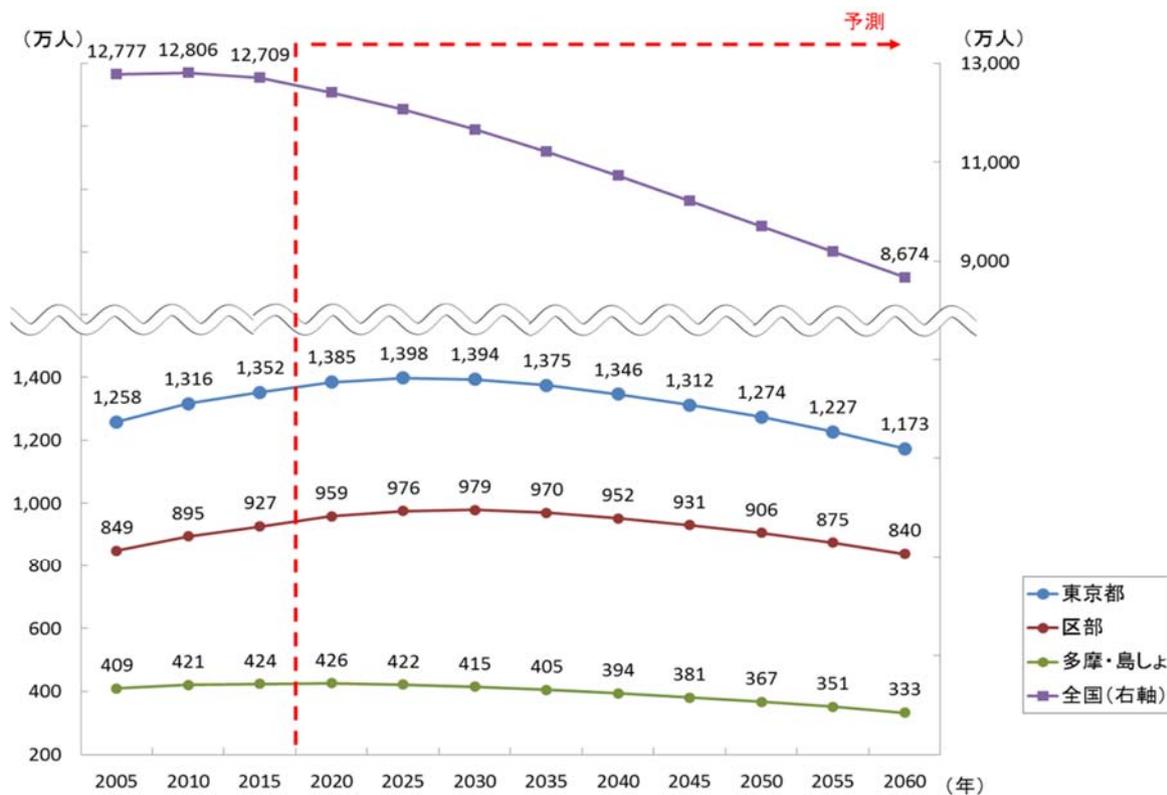
- ・三環状道路*の整備や鉄道ネットワークの形成などにより、首都圏全体の交通・物流機能が大きく改善し、人やモノの流れがより円滑になっていくことも踏まえ、今後も広域的な視点を持ち、都市づくりに取り組む必要があります。
- ・また、近年急速な進化が見られる自動運転技術等、都民生活や企業活動に影響を与える幅広い分野の技術革新も見込まれており、それらの新技術を活用し都市の効率性を向上させることも重要です。

1 東京の人口予測

(1) 人口は2025年をピークに減少局面へ

我が国の人口は既に減少が始まっています。東京の人口も、現在は増加傾向にあるものの、2025年の1,398万人をピークに減少に転じ、2040年には1,346万人になると予測されています。

＜全国と東京都の人口の推移＞



(備考) 2020年以降の東京の人口は東京都政策企画局による推計

(資料) 「都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020年に向けた実行プラン～」
 (平成28年12月) から作成

1 東京の人口予測

(2) 2040年代には約3人に1人が高齢者に

平成27(2015)年の東京の人口に占める老年人口の割合(高齢化率)は22.7%であり、全国平均(26.6%)よりも低い水準であるものの、今後、東京でも全国の後を追うように高齢化が進行し、その速度と規模はより先鋭的なものとなり、東京の高齢者(65歳以上)数は急激に増加していくことが見込まれています。

東京の高齢者数は、2045年には411万人(平成27(2015)年比約110万人増)となり、高齢化率は31.3%(2015年比約8.6ポイント増)と初めて3割を超える見込みであり、都民の約3人に1人が高齢者となる時代が到来します。

<東京都の年齢階級別人口の推移>



(備考) 1. 2020年以降は東京都政策企画局による推計
 2. 四捨五入や、実績値の総数には年齢不詳を含むことにより、内訳の合計が総数と一致しない場合がある

(資料)「都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020年に向けた実行プラン～」
 (平成28年12月)から作成

2 社会状況や技術革新の見込み

2040年代には、技術革新や国際交流の活発化などにより、世界との垣根がより低くなり、都市活動もこれまで以上に多様化していくことが見込まれます。

東京の都市づくりにおいては、こうした変化にも的確に対応し、新たな成長につなげて、活力ある明るい未来を築いていきます。

(1) 社会状況の見込み

1) 世界の人々の往来が活発化

外国人との交流が日常化し、言葉の壁を乗り越えたコミュニケーションが活発化しており、日本の伝統・文化と多様な国際文化とが共存する東京ならではの、にぎわいが生まれています。外国企業の誘致や高度専門人材をはじめとする外国人人材の受入れや活躍も進展し、東京は外国人にとっても暮らしやすい都市として高い評価を得ています。

また、インバウンド^{*}対策やMICE^{*}誘致、ビザ申請の簡略化などにより、世界の人々の往来や交流が更に活発になっています。そして、東京は、国内外からビジネスや観光などの様々な分野において多くの人々が憧れ、訪れる世界有数の国際都市としての地位を確立しています。

2) 高齢者と子育て世代の社会参画

高齢者の健康寿命は更に延び、科学技術が進歩する中で、高齢者が自らの経験や知識を生かして生涯現役で働いたり、ボランティア活動に参加するなど、幅広く活躍し社会を支えています。

また、出産や子育て、介護などのライフステージに沿って、多様で柔軟な働き方が選択できるとともに、地域全体で子育てや介護を支える仕組みが整い、人々がそれぞれの能力を発揮し活躍できる社会になっています。

3) 価値観の多様化とライフ・ワーク・バランスが実現

経済的な価値だけでは測れない「ゆとり」や「質」を重視する生活、モノを持たずにシェアやレンタルをする生活など、人々のライフスタイルや価値観が多様化しています。

また、仕事の効率性・生産性の向上や働き方の見直しにより生まれる時間的な余裕を家庭や趣味に生かすなど、ゆとりのある私生活と仕事とを両立できるライフ・ワーク・バランスが実現しています。

2 社会状況や技術革新の見込み

4) 創造的な芸術・文化活動が増加

日本のみならず世界中の芸術・文化に親しむことがより身近になり、まちにエンターテイメントがあふれています。

また、生活の中に創作活動がと融けこみ、創造的な芸術・文化活動が都市の新たな魅力を創出し、暮らしに豊かさや潤いをもたらすとともに、更なる経済的な価値を生み出す源泉となっています。

5) 自然災害や新たな危機への対応

巨大地震や気候変動による異常気象などに起因する未曾有の自然災害には、ハード・ソフトの両面からの的確な対策が整えられており、拡大するテロや進化するサイバー攻撃、新たな感染症などの脅威への高度な危機対応能力も備えられ、人々の生活を支える安全・安心な都市が形成されています。

6) 国内外をつなぐ広域的なインフラが充実

三環状道路は概成時期を迎え、東京圏を広域的に支える交通インフラが充実するとともに、リニア中央新幹線も東京一大阪間で開業するなど、国内外をつなぐ陸・海・空の交通インフラネットワークが拡充されており、人々の移動はより広域にわたって活発化しています。

(2) 技術革新の見込み

近年、人工知能[※]（AI）、自動運転、環境技術など、様々な技術の開発や実用化が急速に進んでおり、2040年代には、これらが普及・浸透し、社会を支えていることが見込まれます。日々進化する技術は人々に利便性や豊かさをもたらし、日常的な行動をも変える可能性もあり、これらを都市づくりの中で積極的かつ柔軟に受け入れていくことが重要です。

ここでは、それぞれの技術が将来の社会の中でどのように活用されているかを示していきます。

1) 自動運転技術

完全自動運転システムが実用化されることで、交通事故の減少や交通渋滞の緩和など、自動車交通の安全性・効率性は飛躍的に向上するとともに、人・車・交通環境の情報を統合的に活用した新たな取組も行われています。これにより、高齢者や子育て世代などの自由な移動や移動時間の有効活用、移動・輸送時間の短縮など、交通や物流分野で効率化が進んでいます。

さらには、公共的な交通への活用が普及することにより、自動車の所有・利用形態が多様化し、空いた道路や駐車場の空間を、自動車だけでなく歩行者や緑の空間

にも活用するなど、人を中心としたまちづくりが進展しています。

<大型トラックの自動運転・隊列走行>



国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は、平成25年2月、複数のトラックを自動運転で一定の間隔で隊列を組みながら走行させる実験に成功し、自動運転の実用化に向けた取組を進めています。

（出典）「大型トラックの自動運転・隊列走行実験に成功—エネルギーITSプロジェクトの事業成果を公開—」（平成25年2月 NEDO ニュースリリース）

2) エネルギー・環境技術

エネルギー利用の効率化等の技術革新や環境に優しい製品の選択等の意識改革が進み、太陽光をはじめ再生可能エネルギーや水素エネルギーが都市活動を支えるエネルギーとして活用されています。より低炭素で多様なエネルギー利用が進み、エネルギー利用に不安がなく、持続可能な社会への転換が進んでいます。

また、温室効果ガスを排出しない電気自動車（EV）や燃料電池自動車[※]（FCV）の普及や、住宅における燃料電池の普及などが、エネルギー事業の自由化や身近で多様な発電施設の整備・活用を促し、地産地消のエネルギー活用等、エネルギーの効率的な利用が進んでいます。

さらには、完全な循環型社会の実現に向けたごみ・廃棄物処理・リサイクルや下水道処理、省エネ、ヒートアイランド対策[※]など、優れた環境技術の導入が飛躍的に進展し、高効率な資源・エネルギー利用や環境負荷の低減により大気・水・熱など都市環境が総合的に改善しています。

3) 人工知能（AI）技術

人工知能技術が飛躍的に進展し、交通渋滞の緩和、公共交通の自動運転、医療・介護の高度化など、様々な分野で広く実用化され、社会の課題解決に役立っています。

人工知能技術の応用により、認知機能や判断機能を備えたロボットが産業分野における生産性向上や、福祉分野における高齢者や障害者の生活支援など、新たな労働力として貢献しています。

4) 情報・通信技術

ICT[※]の進展により、情報・通信分野をはじめとする多くの新技術が産業や生活に取り込まれ、安全性・利便性・効率性が高まり、人々の暮らしが豊かになっています。

2 社会状況や技術革新の見込み

このうち、IoT※技術により、モノの位置や動き、状況などをリアルタイムに把握・コントロールすることで、商品のカスタムメイド※化、品質や生産性の向上、効率的なエネルギー利用、廃棄物の減少などが実現しています。

また、官民の保有する様々なデータが個人情報に配慮した形でオープンデータ※化され、誰もが自由にデータを入手・加工・分析・活用できるようになっており、様々な分野で個々のニーズに合わせた新たなサービスの提供も行われています。

位置情報やカスタマーデータ※、ソーシャルメディアデータ※など、ビッグデータ※についても活用が進み、利用者のニーズに即したサービスの提供や業務運営の効率化、新たな産業が創出されています。

情報を利活用する際の安全性についても、生体認証技術※や情報管理技術の飛躍的な進歩により高い情報セキュリティレベルの下、犯罪やサイバー攻撃、テロなど、様々な脅威への対応能力が高まっています。

<物流倉庫における作業の自動化>



米 Amazon は、物流倉庫において、作業棚を作業員に届ける作業ロボットを導入し、作業の効率化や人件費の削減、配達の迅速化に向けた取組を進めています。

(出典) 「平成28年版情報通信白書」(平成28年7月 総務省)

3 2040年代における都民の活動イメージ

社会経済状況や技術革新を踏まえ、2040年代の将来像の一端として東京に住み、働き、訪れる人々の活動イメージを、実行プランにおける3つのシティ、すなわち「セーフ シティ」「ダイバーシティ」「スマート シティ」を実現していくという展望の下で描いています。

【実行プランにおける3つのシティ】

セーフ シティ：もっと安全、もっと安心、もっと元気な首都・東京

ダイバーシティ：誰もがいきいきと生活できる、活躍できる都市・東京

スマート シティ：世界に開かれた、環境先進都市、国際金融・経済都市・東京

(1) 世界を舞台に活躍

ビジネスや研究、文化、食など、様々な分野においてグローバルに活躍しやすくなり、豊かな生活を実感しています。

◆ビジネスで世界に挑戦

- ・区部中心部のビジネスセンターには、国内外から世界トップレベルの企業がアジアにおける業務統括拠点※を置き、多様な人材が集まっています。
- ・国際金融やライフサイエンス※など、付加価値を生み出す国際競争力の高い産業に従事するビジネスパーソンが活発に交流し、新たな価値を創出しています。

◆イノベーションで世界に貢献

- ・幅広い分野で新たなイノベーション※を生み出すベンチャー企業※が途切れることなく創出され、最先端技術を有する多くの企業が東京を拠点として世界を舞台に活躍しています。
- ・新たな価値を生み出すインキュベーション※施設では、企業、大学、研究機関などのつながりの下、開発・製品化などを支えるプラットフォームが形成され、好循環を生んでいます。

◆都市農業等で東京ブランドを世界に発信

- ・先進技術を活用し、少量多品目でも効率的な農業経営が行われ、大消費地との近接性を生かした都市農業が営まれるとともに、江戸東京野菜等が付加価値の高い東京ブランドとして世界に発信されています。
- ・東京の洗練された食文化や伝統文化、おもてなしの心が広く世界を魅了し、憧れの的となっています。

<国際色豊かなビジネス活動のイメージ>



(画像提供)Getty images

(2) 誰もがいきいきと交流・活躍

若者、女性、高齢者、障害者、外国人など、誰もが意欲と能力を生かして自由に交流し、多様な人々がコミュニティを支え、いきいきと活躍しています。

◆誰もが自分の可能性を生かして活躍

- ・子育て期の女性や高齢者、起業を志す若者など、誰もが意欲や能力、経験などを生かせる社会の中でいきいきと活躍しています。
- ・住宅や病院、学校、子育て支援施設など、外国人が安心して日本で暮らせる環境も整っており、世界各国から集まった多様な人々が活躍しています。

◆技術の進展により生活の自由度が広がる

- ・ユニバーサルデザイン[※]のまちの中で、介護ロボットや自立を支援するロボットを活用しながら、人々は年齢や障害の有無に関わらず安心して快適な日常生活を送っています。
- ・完全自動運転システムの実用化により、好きな場所まで好きな時間に移動できるようになり、誰もが気軽に外出し、幅広い交流を楽しんでいます。

◆活発な地域交流によるにぎわい

- ・暮らしに身近な地域においても、駅や商店街などを中心とした交流の核づくりが進められており、地域の個性を生かしたにぎわいや活発な交流が生まれています。
- ・古くから続く祭り等の伝統の継承を通じ、活発な地域コミュニティの下で風情のある街並みが維持・形成され、人々の交流が盛んに行われています。
- ・高齢者や障害者、外国人など、多様な人々が積極的に地域活動に参加し、地域コミュニティが活性化しています。

<マルシェ[※]で買い物やイベントを楽しむ>



(3) 多様なライフスタイルを選択

平日・休日という感覚がなくなるなど、個人の価値観やライフスタイルに合わせて暮らし方・働き方を選ぶことができ、自由でゆとりのある暮らしを送っています。

◆ニーズに合わせた働き方

- ・余暇と仕事の時間を自分で選択できることで、行動の幅が広がり自由で質の高い生活を楽しんでいます。
- ・テレワークの普及等により時間や場所にとらわれない柔軟な働き方が定着し、子育て中も子供とゆっくり触れ合う時間を楽しみながら、安心して働き続けることができています。
- ・海外のビジネスパートナーとも言語や距離を気にせずに会議等のコミュニケーションが可能となっており、スムーズにビジネスが展開されています。

◆ゆとりのある暮らし方を満喫

- ・リノベーションされた空き家や古民家を別荘として利用するなど、個人のライフスタイルに合わせた多様な暮らしを楽しんでいます。
- ・企業の活動スタイルも多様になり、ビジネス拠点でのフェイス・トゥ・フェイスを中心としたビジネス活動とは別に、スペースの広さや自然環境の豊かさを求めて本社機能の移転やサテライトオフィス[※]を設置する動きも増え、生活と仕事を両立できる職場環境が多様な人材を惹き付けています。
- ・モノを持たずにシェアやレンタルをする生活が浸透しており、モノ、空間、時間を効率的に活用しています。

◆芸術・文化を身近に体感

- ・デジタルアート等、最新技術を駆使したアートイベントから日本の伝統芸能まで、

3 2040年代における都民の活動イメージ

多彩な芸術・文化活動が行われ、仕事帰りのビジネスパーソンや国内外の観光客が、東京ならではの芸術・文化を満喫しています。

- ・公園等においては、魅力あるパブリックアートが随所に見られ、日常的にライブパフォーマンスが繰り広げられているなど、誰もが気軽に芸術・文化活動を楽しめるサード・プレイス[※]としてまちの魅力となっています。

<時間や場所にとらわれない働き方のイメージ>



(画像提供)PIXTA

(4) 自然に親しむ

緑や水の安らぎや潤いを身近に感じ、快適な生活を楽しんでいます。

◆都会で自然を感じながらスポーツや趣味を楽しむ

- ・東京の海辺や運河などでは、水や緑による安らぎや潤いを感じられる豊かな水辺空間がにぎわいを生んでおり、カヌーで遊ぶ子供たちを親がオープンカフェから穏やかに見守る光景も見られます。
- ・都市の憩いの場となっている緑豊かな公園には、多くの人が行き交い、開放的な空間でのイベントやお花見など、昼夜や季節を問わず一年を通じて交流を楽しんでいます。
- ・多くの人々が日常生活の中で四季折々の自然に親しみながら、快適にまちなかで散策やジョギング、サイクリングなどを楽しんでいます。

◆緑や水に囲まれた穏やかな生活

- ・オープンスペースの少ない市街地において、潤いを与える貴重な資源として、農地が維持・保全され、次世代に引き継がれています。
- ・郊外では、緑や水に囲まれたゆとりのある空間の中で、ICTを活用して場所にとらわれずに働くなど、ゆとりのある暮らしを送っています。
- ・隣の空き地も使った広い庭付き・菜園付きの住まい等で、子育て世帯などが家族で団らんしながらいきいきと暮らしています。
- ・農業の多面的な経営が進み、住宅近くにある体験農園では、農業技術の指導を受けながら野菜づくりができるなど、土に触れる暮らしを楽しむ人々でにぎわって

います。

◆大自然の中で非日常を体験

- ・島しょ部では、世界的にも希少な生態系等、東京の島の魅力を体感するエコツアーリズム※を多くの人々が楽しんでいます。
- ・多摩地域では、豊かな自然環境の中での本格的なアウトドアスポーツが注目を集め、国内外から多くの人々が集まっています。

<緑豊かな空間で家族団らん>



(画像提供)Getty images

(5) 安心して住み続ける

安全・安心な環境の中で、多様な文化を受け入れ活気のある東京らしさを感じながら暮らしています。

◆地域で人と人が支え合う

- ・コミュニティが主体となった地域に根付いた活動が活発に行われ、子供から高齢者まで強いつながりができ、子供たちは伸び伸びと成長しているとともに、誰もがまちに誇りを持って暮らしています。
- ・以前は少なかった外国人対応の病院や学校、子育て支援施設などが増え、世界各国から集まった多くのビジネスパーソンやその家族が安心・快適に生活しています。

◆災害に備えてしっかり準備

- ・かつての木造住宅密集地域^{*}は安全で快適なまちに再生され、下町風情のある街並みが保全されるなど、子供から高齢者まで地域に愛着を持って安心して暮らしています。
- ・防災イベントにも気軽に参加するとともに、災害時にお互いが協力し合えるよう、防災訓練等、地域のコミュニティ活動にも携わることで、自助・共助の地域防災力が高まっています。

◆東京らしさを感じ続けられる

- ・安全・安心な環境の中で、東京の伝統文化と海外の様々な文化との共存によるにぎわいや緑あふれる住宅地、魅力のある商店街、豊かな自然、風情のある下町など、多彩な魅力をもつ東京ならではの趣も感じながら暮らしています。
- ・電柱や電線が姿を消し、青く広がる空を楽しんでいます。

<帰宅困難者の受入訓練>



GINZA KABUKIZA 平成26年3月11日訓練
(画像提供)株式会社歌舞伎座

第3章 東京が果たすべき役割

東京の望ましい都市像を描くためには、東京が将来、国際社会や日本の中でどのような役割を果たすべきかを明確にし、その上で、どのような都市を目指すべきかを考える必要があります。

1 世界における役割

(1) 包容力を持ち、多様な人々・文化の交流を育む

東京は、一都三県で人口 3,600 万人を擁する世界でも類を見ない大都市圏の中心です。政治や経済、文化など、多様なサービスや産業の集積をベースに、大規模で安定感と信頼感のある巨大なマーケットが構築されており、世界の中でも高感度な消費者をターゲットにしたショーケースやテストマーケットとしての機能を担っています。

経済や環境、産業、観光、文化など、あらゆる分野で東京を進化させるとともに、多彩な魅力とイノベーションを創出し、多様な人々と文化の交流の場や世界に羽ばたく人材を育成する場としての役割を果たす包容力のある都市を目指します。

<都市空間における先端技術のショーケース化>



文部科学省は、日本の優れた技術・社会システムを国内外にアピールするため、先端ロボットが活躍する社会を体験できる場を創出するなど、先端技術のショーケース化を推進しています。

(出典)「第1回ユニバーサル未来社会推進協議会」資料
(平成27年9月 文部科学省)

(2) 都市課題の先駆的な解決モデルを構築・発信する

東京は、世界に類を見ない急速な少子高齢化・人口減少の進行や切迫する大地震の脅威など、都市の根幹を揺るがす課題やリスクが存在します。今後、先進的な取組を積極的に進め、東京がいち早くこれらの解決策を見出し、世界の範となるモデルとして実践していきます。

また、東京は、これまで急速な人口増加に対応した計画的かつ効率的な都市基盤や市街地の整備等を進めてきた経験や、大気汚染やヒートアイランド対策など環境問題に取り組んできた経験があり、そのノウハウや技術を同様の課題を抱える都市で生かしていきます。

(3) 伝統と先進を融合させ、新たな価値を創出する

江戸開府以来 400 年にわたり培ってきた歴史や伝統と、最先端の技術や先鋭的な芸術を融合させ、東京ならではの個性として発揮し、新たなビジネスモデルや、成熟時代における都市やライフスタイルの在り方、文化的な価値を創出し、世界に発信していきます。

<東京ビッグサイトプロジェクションマッピング>



東京国際プロジェクションマッピングアワード実行委員会は、2016年に東京ビッグサイトの壁面を活用したプロジェクションマッピングの大会を開催し、将来のコンテンツ産業の中核を担う世界で通用する若手映像クリエイターの育成や、CG技術の高度化・普及を進めています

(出典)東京都ホームページ

2 日本における役割

(1) 日本の首都として経済活動の推進力を発揮する

人・モノ・情報の高度な集積を生かし、時代の変化に対応した付加価値の高い産業やサービスを創出するとともに、ライフサイエンスやICTなどの高次な機能を伸ばしていきます。

こうした経済活動の推進力を発揮し、世界に開かれた国際金融・経済都市として更に発展させるとともに、全国にその効果を波及させ、日本経済の活性化と持続的な成長を支えています。

(2) 様々な地域と連携し、一層魅力的な日本を創造・発信する

日本の各地域と東京とが、それぞれの持つ魅力を高め、互いに連携し合うことにより、共に成長し、地域経済を活性化するとともに、日本全体の持続的発展へとつなげていくことが重要です。

広域的な交通・情報ネットワークを最大限活用し、産業、観光、文化などの面で交流・連携を深め、各地域と東京が協働し日本全体の魅力を世界に発信していきます。

<東北六魂祭パレード>



東京新虎まつり実行委員会は、平成28年11月に虎ノ門で、東日本大震災からの復興を願ってパレードを開催し、東日本大震災から立ち上がった東北の姿や、世界に誇る日本の魅力のある伝統文化を発信しました。

(出典)第4回「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を
通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議」経済産業省資料
(平成28年12月 首相官邸)